

Extreme

PRESS by AJPS

[エクストリームプレス]

Vol. 7 2013
Winter

遊
る
ほ
と
ば
し

FREE

ご自由に
お持ちください

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス





[Cover Photo] 高須 力 Tsutomu Takasu
シングルス決勝が始まる前に開閉式の屋根が開けられた。その隙間から一筋の光が射すと、観客のどよめきとともに、見事な青空が頭を出した。最高の光線の中で、最高の瞬間を切り取ることができた。
2012.10.7、楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス 2012、Canon EOS-1D Mark IV、EF400mm F2.8L IS II USM、1/4000、F2.8、ISO200、ホワイトバランス マニュアル、サンディスク エクストリーム プロコンパクト フラッシュカード

<http://www.ajps.jp>

Publishing AJPS (Association Japonaise de la Presse Sportive)

Publisher Akihiko Mizutani

Project Manager Yoshio Kato

Editor in Chief Takamitsu Mifune

Editor Kenji Iimura - Hideyuki Imai - Tetsushi Ono - Aki Kusudo -

Kenjiro Sugai - Shinichiro Tanaka - Tomohiro Watanabe

Editorial Coordinator Asuka Senaga

Design futuretune

特別協力：公益財団法人 日本テニス協会 <http://www.jta-tennis.or.jp>
公益社団法人 日本プロテニス協会 <http://www.jpta.or.jp>

CONTENTS

巻頭エッセイ Vol.7

絶対無二

飯塚 健司 / 文 Kenji Iizuka

Moments

ほとばし

進る。

北川 外志廣 / 写真 Toshihiro Kitagawa

加藤 誠夫 / 写真 Yoshio Kato

高須 力 / 写真 Tsutomu Takasu

三船 貴光 / 写真 Takamitsu Mifune

山田 高央 / 写真 Takao Yamada

Close Up

松岡 修造 (日本テニス協会強化本部副本部長)

矢内 由美子 / 文 Yumiko Yanai

今井 秀幸 / 写真 Hideyuki Imai

加藤 誠夫 / 写真 Yoshio Kato

Impression

機材とメディアの一体化が生み出す至高の瞬間

水谷 章人 / 写真 Akito Mizutani

宮崎 恵理 / 文 Eri Miyazaki

北川 外志廣 / 写真 Photograph by Toshihiro Kitagawa

ディミトロフ（ブルガリア）の強力なショットが右左の角に突き刺さる。近藤大生は全力で走り回る。初秋の色濃く落ちた自分の影を追うように、本戦出場も容易ではない国内唯一のビッグトーナメント、楽天オープン予選の一幕だ。

2012.9.29、楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス 2012、Canon EOS-1D Mark IV、EF70-200mm F2.8L IS USM、1/2000、F3.2、ISO250、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクト フラッシュカード

Moments

ほとばし

進る。



絶対無二 飯塚 健司

真剣に取り組んだことはない。しかし、テニスから教えられたことがある。スポーツに関わる者なら誰もが、そうでない者でも一度は耳にしたことがあるだろう言葉がある。

この一球は絶対無二の一球なり
されば身心を挙げて一打すべし
この一球一打に技を磨き体力を鍛へ
精神力を養ふべきなり
この一打に今の自己を發揮すべし
これを庭球する心といふ

1922年に行われた第1回全日本テニス選手権の優勝者である福田雅之助の言葉であり、一般にも広く知られている庭球訓である。95年の温ブルドンでは、4回戦でマッチポイントをつかんだ松岡修造がサーブを打ち込む前にこの言葉を唱え、日本人選手として62

年ぶりのベスト8進出を決めている。

選手がゆっくりとトスアップし、ラケットを洗練された軌道で振り下ろす。わずか数秒

のこの瞬間、観戦者は日常では味わえない緊張感に包まれる。よいサーブが決まれば、一

打でポイントとなる。逆に、素晴らしいリターンエースを決められ、一打でポイントを許すこともある。ラリーになれば、お互いが気持ちの入った一打一打を全力で打ち込み合う。

だからこそ、相手を上回るには目の前の一打に常に“今の自己を發揮”しなければならない。その積み重ねの先に、勝利がある。

選手たちは一打のために日々厳しい練習を積み重ね、技術、体力、精神力の向上に努めている。そのぶつかり合いは、ときにいたたまれない突き刺さるような感情を観戦者に与える。高い集中力の維持なくして、自己の発揮はあり得ない。心が乱れ、平常心を失うと、

どんどんポイントをロスすることになる。ネットにかかるボールが増え、大きくラインアウトするボールが増えてくる。そうした選手たちの精神状態がリアルタイムで伝わってくるのも、テニスの魅力のひとつである。

さて、冒頭に教えられたことがあると記した。取材現場で、あるいは原稿執筆の際に、庭球訓を心に思い浮かべて臨むときがある。ときに心を乱し、ポイントをロスしているかもしれないが、原稿の一本一本、一文字一文字に身心を挙げて取り組んでいる。常に今の自己を発揮するべく心がけている。また、日々の生活のなかでも“絶対無二の機会なり”と考えて物事に取り組むときがある。

どのような要素に感化されるかは、人によつてそれぞれだろう。しかし、必ずなんらかの刺激を得られる。テニスはもちろん、スポーツにはそんな力がある。

加藤 誠夫／写真 Photograph by Yoshio Kato

『ライジング・ショット』。彼女の代名詞と言われるこの言葉が一世風靡したのは90年代中盤、アジア出身女子選手として初の世界トップ10入りを果たし、『ライジング・サン、到来』と呼ばれた。2008年に復帰。世界に挑み続ける姿は、今も私たちに刺激を与える。

2012.10.8. HP JAPAN WOMEN'S OPEN TENNIS 2012.
Canon EOS-1D Mark IV, EF200mm F1.8L USM, EXTENDER
EF 1.4X II, 1/1600, F3.5, ISO400, ホワイトバランスオート,
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



クルム伊達公子
(エステティック TBC)



瀬間 詠里花

(Club MASA)

加藤 誠夫 写真 Photograph by Yoshio Kato

7歳からテニスを始め、2005年、17歳でプロデビューした瀬間詠里花。端正な顔立ちとコートに立つ凛とした姿は、テニス特有の過酷さとはあまりにもミスマッチ。ダイナミックなプレーも、彼女の魅力だ。
2012.10.8. HP JAPAN WOMEN'S OPEN TENNIS 2012. Canon EOS-1D MarkIV、EF200mm F/1.8L、EXTENDER EF 1.4X II、1/1600、F4.5、ISO200、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



土居 美咲

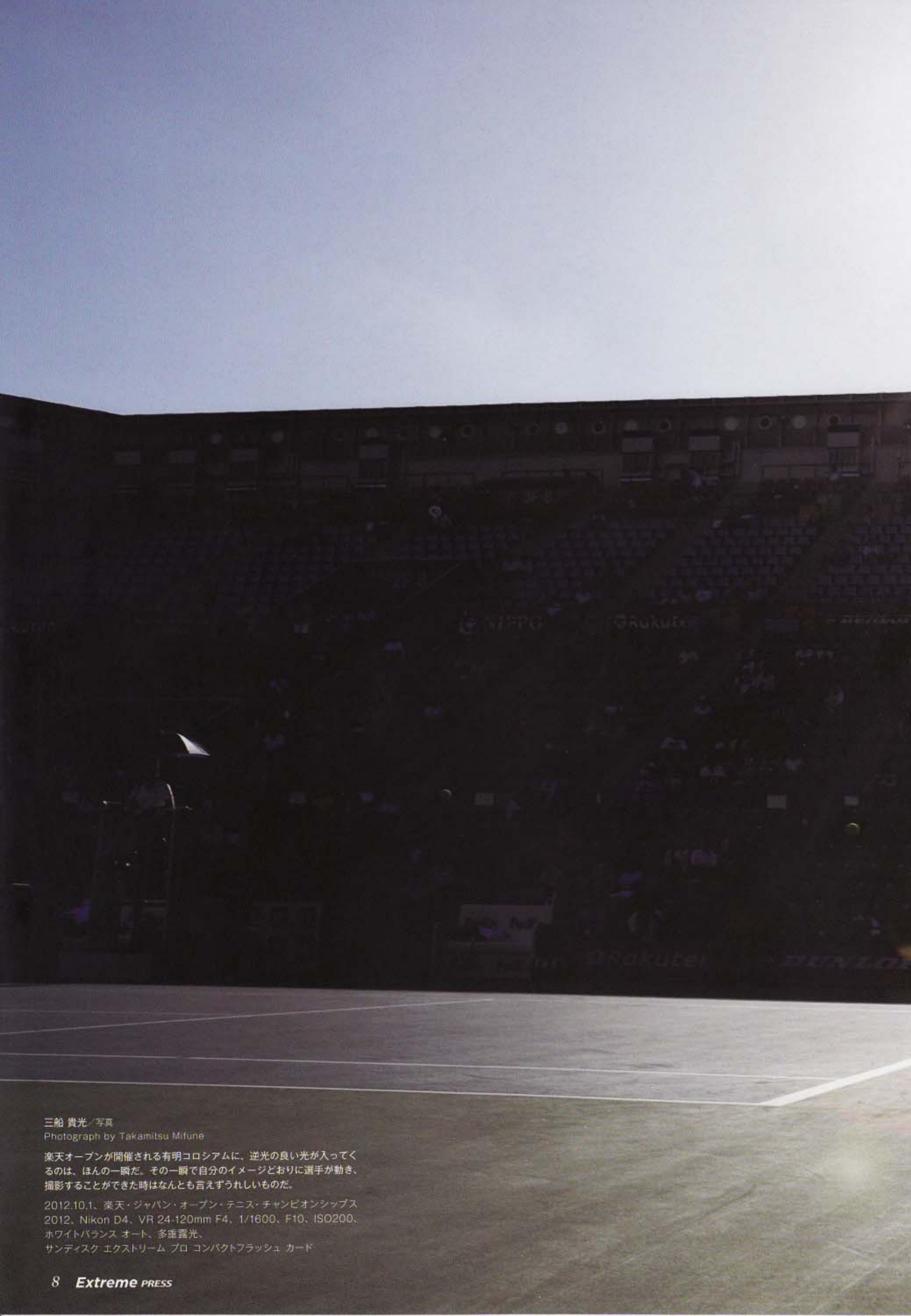
(ミキハウス)

高須 力 写真

Photograph by Tsutomu Takasu

相手の強烈なサーブに必死で食らいつく瞬間。しかも、両手打ちのバックハンドストローク。このシーンこそ、テニスで最も絵になる瞬間だと思い、すかさずシャッターを切った。

2012.9.21. 東レ・パン・パンフィック・テニス、Canon EOS-1D Mark IV、EF400mm F2.8L IS II USM、1/1000、F2.8、ISO1600、ホワイトバランス マニュアル、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



三船 貴光／写真
Photograph by Takamitsu Mitune

楽天オープンが開催される有明コロシアムに、逆光の良い光が入ってく
るのは、ほんの一瞬だ。その一瞬で自分のイメージどおりに選手が動き、
撮影することができた時はなんとも言えずうれしいものだ。

2012.10.1 楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス
2012, Nikon D4, VR 24-120mm F4, 1/1600, F10, ISO200,
ホワイトバランス オート、多重露光、
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



守屋 宏紀
(北日本物産)



錦織 圭 (日清食品)

三船 貴光／写真
Photograph by Takamitsu Mitune

日本を代表するテニス選手、錦織圭。彼のプレー中の目には、力がある。普段、テニスの撮影ではめったに使用しない800mm（2×のテレコンバーター）を使用し、彼の“目力”を表現することに、とことんこだわった。

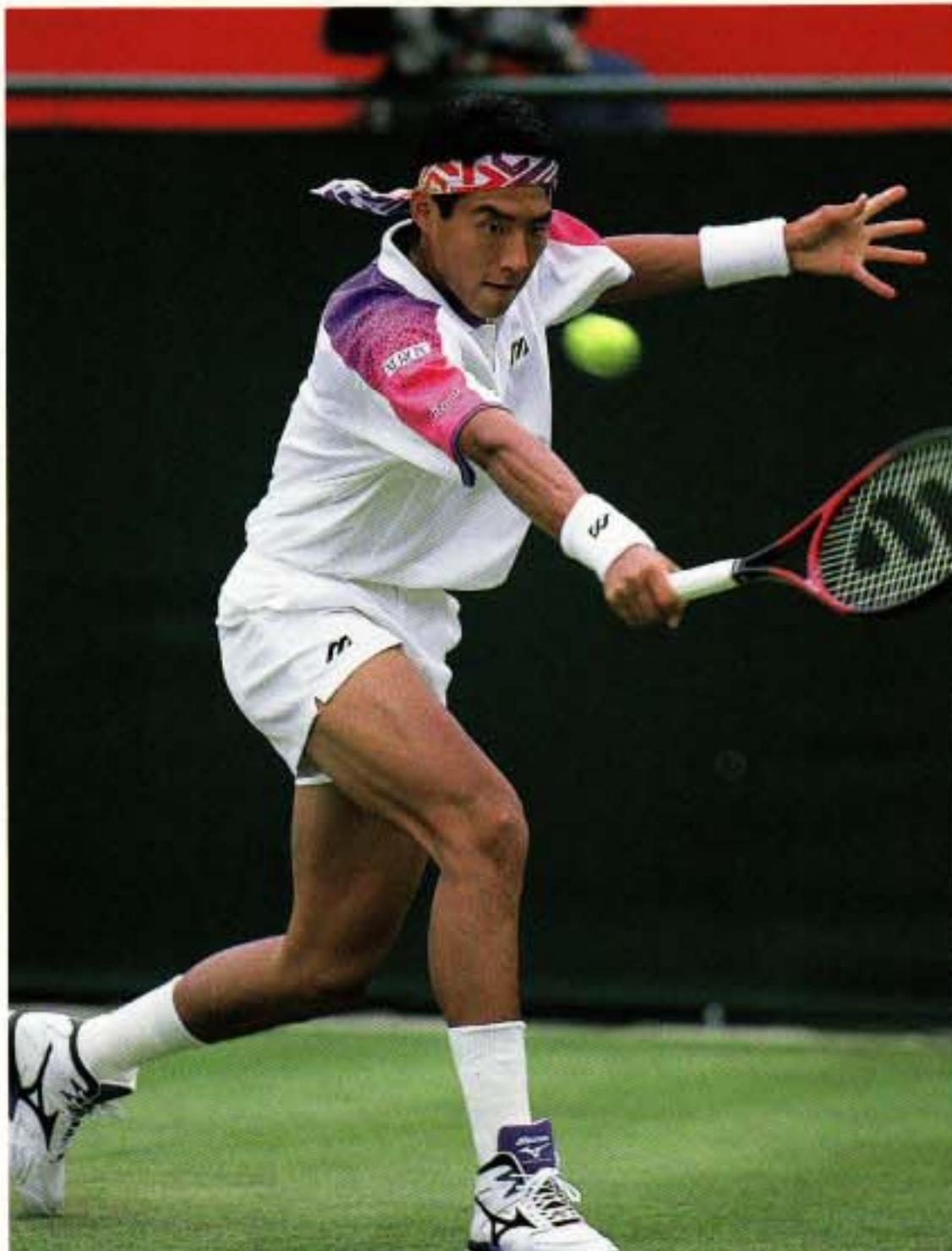
2012.10.2. 楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス 2012. Nikon D4、VR 400mm F2.8、AF-S TELECONVERTER TC-20E III、1/1600、F5.6、ISO1000、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



山田 高央／写真
Photograph by Takao Yamada

ボールを追いかけて宙を舞い、コートを縦横無尽に駆けまわる。錦織圭が目指すプレースタイルは“ウイニング・アグリー”。矢のようなサーブにも野獣のように食らいつき、リターンを決める。そんな彼の粘り強さを表現した。

2012.10.3. 楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス 2012. Canon EOS-1D X、EF300mm F2.8L IS II USM、1/1250、F2.8、ISO4000、ホワイトバランス マニュアル、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



1993年、ステラアルトア・グラスコート選手権(英)にて

加藤 誠夫 / 写真 Photograph by Yoshio Kato

松岡 修造

日本テニス協会強化本部副本部長

松岡修造（まつおか しゅうぞう）1967年11月6日生まれ、東京都出身。86年にプロテニス選手としてデビュー。92年KALカップで日本男子として初めてATPツアー男子シングルス優勝を果たし、95年ウィンブルドン選手権では日本人男子として62年ぶりとなるベスト8入りの快挙を成し遂げた。自己最高ランキングは46位。98年に現役を退いてからはジュニア育成の「修造チャレンジ」主宰のほか、メディアでも幅広く活躍中。2012年から日本テニス協会強化本部副本部長に就任した。

【修造チャレンジ公式サイト：<http://www.shuzo.co.jp/challenge>】

矢内 由美子 / 文 Text by Yumiko Yanai

錦織圭のロンドンオリンピックベスト8、ジャパンオープン初優勝に象徴されるようには、昨今の日本男子テニスはかつてないほどの活況を呈している。現役時代、ウィンブルドン選手権でベスト8に入るなど革命的な功績を残し、2012年から日本テニス協会強化副本部長に就任した松岡修造氏に、テニス界の現状と日本テニスの未来について語ってもらった。

——12年の錦織選手の活躍はめざましいものがありました。世界ランクは15位前後まで上がり、トップ10も間近です。

「僕が（錦織）圭を最初に見たのは彼が11歳のとき。あのときの印象は衝撃的でした。テニスに対しての感覚、取り組み方、ゲームのプランニングや判断が素晴らしい、あれほどの天才とはもう一生出会えないので、と思ったくらいです」

——世界のトップは錦織選手をどう見ているのでしょうか。

「テニスセンスに関しては誰もが認めるところです。世界1位のノバク・ジョコビッチ（セルビア）は、「彼のセンスがうらやましい」と言います。テニスの四大大会（グランドスラム）すべてで優勝経験のあるラファエル・ナダル（スペイン）より圭の方がテニスの技術においてはセンスがあると僕は思っています」

——錦織選手以外にも、添田豪選手はトップ50に入り、伊藤竜馬選手も100位以内に入りました。

「僕の現役時代は、日本男子が100位以内に入ることは夢のまた夢でした。そういう環境の中で、僕はラッキーなことに最高で世界46位になることができましたが、あの時代と今ではまったくレベルが違います。選手の体力は大幅に向上了し、反射神経もいい、体幹も強い。そういう時代にあって、日本の男子が3人も100位以内に入っている。これは奇跡的なことです。でも残念ながら、そのすごさが日本ではしっかり伝わっていません」

——松岡さんが孤軍奮闘していた時代と比べ、日本男子はなぜ強くなったのでしょうか？

「理由としてはジュニアからの一貫した強化システムや、支援体制の充実があります。圭は13歳のとき、当時日本テニス協会会長（現・名誉会長）である盛田正明氏が設立した『盛田正明テニス・ファンド』の支援を受け、米国でテニス修行を行



世界にチャレンジする
ジュニアを応援しています

今井 秀幸 / 写真 Photograph by Hideyuki Imai

積みました。また、98年にスタートした『修造チャレンジ』というジュニア育成のプログラムの中では、日本テニス協会と共に、世界を目指すトップジュニアを対象とした強化キャンプをやっています

——ジュニアに教えているのはどのようなことですか。

「僕らが伝えようとしているのは『世界で戦うには何が必要か』ということ。テニスの技術だけではなく、体力やメンタルも含めてトータルで必要なことを教えています。その結果、日本は近年、ジュニアデビスカップで優勝するなど成績を上げていくようになり、「日本ではどのような指導をしているのか」と他国からも注目されています」

——それによって、ジュニアの意識自体に変化がもたらされたのでしょうか？

「はい、以前とはまったく違います。今は圭の存在自体が最良の教材になっていて、ジュニアは皆、圭を見て育ち、超えたいと思っている。だから世界15位が最低ライン。50位では物足りないのです」

——ジュニアのお手本でもある錦織選手は、今後どこまで行けるでしょうか。

「圭は確実にグランドスラムで優勝できる選手です。世界ランク1位になるには体力やメンタルに課題があるでしょうが、グラン

ドスラムでの結果という意味では、ここ1、2年で出してもらわないといけないくらいの選手です。それは本人も分かっていて、12年の全豪オープンで8強に入ったときには『ここからが始まりです』と言っていました。僕だったら泣いて喜ぶ結果なのにです」

——他に可能性のある選手は？

「グランドスラムのベスト8に関して言えば、多くの選手に可能性があります。僕がベスト8を入れたのは対戦相手の組み合わせが良かったのと、その時期の僕の勢いででした。ですから、100位以内の選手であればチャンスがあります。ですから、添田選手、伊藤選手にも十分に可能性があると僕は思っています」

——女子はいかがですか？ クルム伊達公子選手がトップ10に入っていた90年代半ばには、伊達選手を筆頭にグランドスラム大会に11人が出たこともありましたが、昨今は苦しんでいます。

「何にでもいいときと悪いときはあると思います。そういった中で、女子に関して言えば、どちらかというと個人での強化が多かった。男子は12歳からデビスカップまで続いているルートができましたが、女子にはそれがなかったのです。ですが、今はフェドカップのチーム全員が、気持ちを

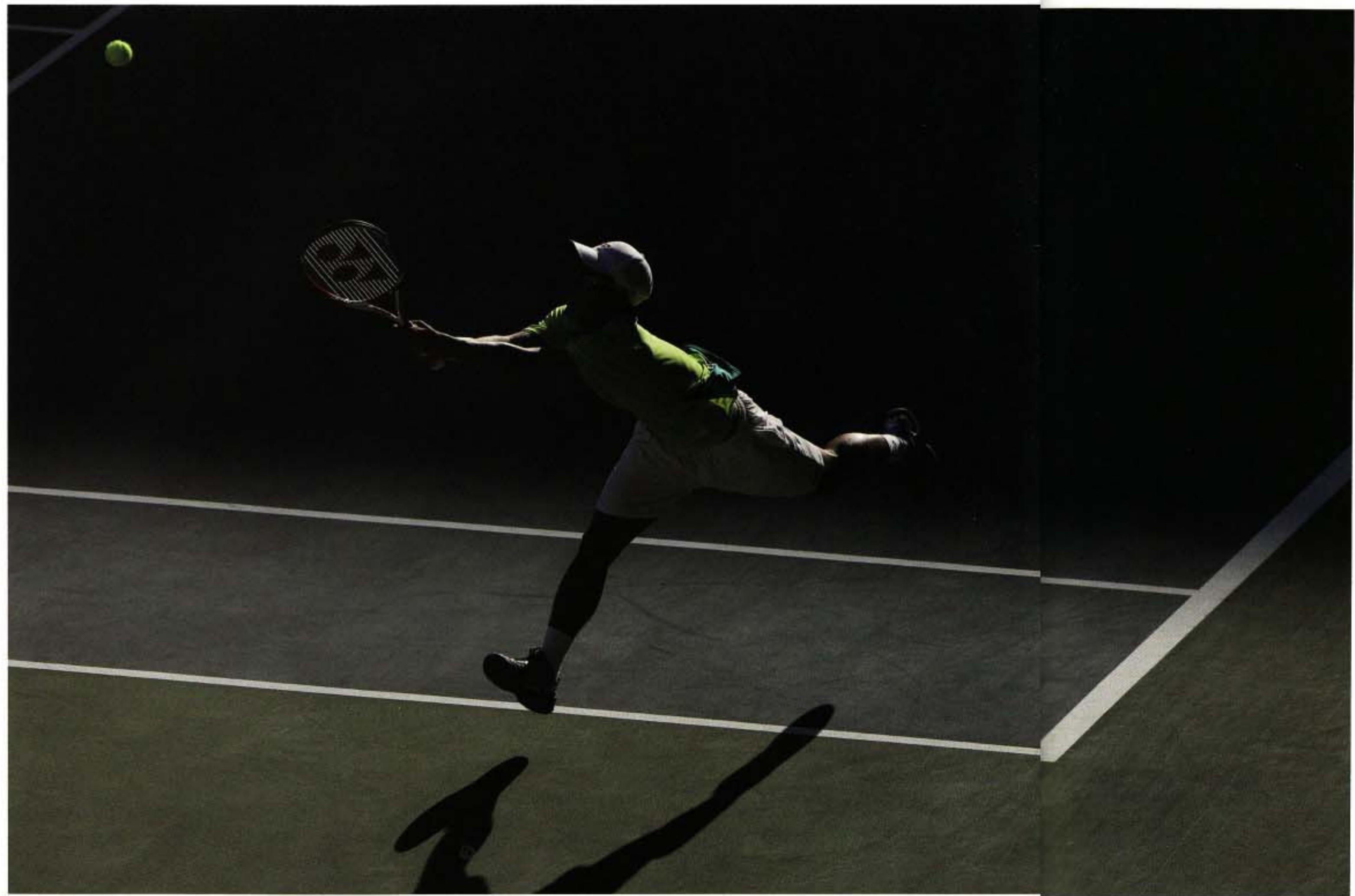
一つにしてやっていこうとしています。まだ結果は出ていませんが、将来を見据えれば男子より女子の方が確実に可能性大だと言えるほどです」

——期待の注目選手は？

「奈良くるみ選手、土居美咲選手にはトップ10に入る可能性が十分にあります。グランドスラム大会に日本人が10人出るということも可能があると思います。なぜなら今の女子の世界トップは強打が主流で、それが入るか入らないかという、やや単調なテニスになっています。だからこそ、強打以外で勝負できる日本の女子にはチャンスがあるのです」

——松岡さん自身は今後どのように強化に取り組んでいきたいですか。

「僕はテニスの才能はないとずっと言われて育ってきましたし、全日本では14歳以下でしか勝ったことがありません。だから応援することや、今やっている仕事の方が向いていると思っています。今、日本テニス協会の仕事の中で担当しているのは男子ジュニアの強化全般。今後はより厳しい状況になっていくでしょうが、圭の後にも有望なジュニアが続いている。これからもいい形で関わらせていただきたいと思っています」



守屋 宏紀（北日本物産）

プロカメラマンが選ぶ〈サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード〉×〈Canon EOS-1D X〉

機材とメディアの一体化が生み出す 至高の瞬間

水谷 章人 / 写真 Photograph by Akito Mizutani

宮崎 恵理 / 文 Text by Eri Miyazaki

信頼できるメディアで 撮影に集中する

水谷章人。スポーツ写真をアートへと昇華させた草分けであり、その作品は日本国内だけでなく世界をも魅了する。

モノクロームで切り取られた、選手の視線。極限まで鍛え上げられた筋肉と汗。躍動感や緊張感が、見る者を圧倒する。その

スポーツが持つ世界観が、1枚の写真の中に凝縮されている。1980年代、文藝春秋の『スポーツグラフィック・ナンバー』誌上で、5年間にわたりモノクロームで撮影された写真が観音開きで掲載された。この写真に衝撃を受けてスポーツカメラマンを志す人が急増。スポーツ写真家というジャンルを確立させたエポックな連載として、現在スポーツジャーナリズムに携わる人々

の記憶にしっかりと根ざしている。

2000年のシドニーオリンピックから、水谷氏はデジタルカメラを手にした。「当時はまだフィルムのカメラと両方を使用していたけれど、その後はものすごい勢いでデジタルカメラの性能が向上していった。その頃から記録メディアも進化してきたよね」

高性能になるほど、機材とメディアの一

体化が重要だと水谷氏は力説する。

「スキーの写真などは天候や気温が急激に変化するし、海での撮影では細かい砂が入ってしまうこともあるのでメディアをできるだけ交換たくない。競技場で雨に降られることもしょっちゅう。そういう外的要因でトラブルが起こらない耐久性の高いサンディスクのメモリーカードには、絶対的な安心、信頼性がある」

テニスに一瞬の美を求め、光と影を生かして撮影した渾身の一枚。トッププレイヤーならではの躍动感あふれるバランス美の素晴らしさを表現した。

2012.10.1、楽天・ジャパン・オープン・テニス・チャンピオンシップス2012、Canon EOS-1D X、EF400mm、F2.8L IS II USM、1/2000、F5.0、ISO200、ホワイトバランス オート、サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード



サンディスク
エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ カード 128GB

機材だけでなく メディアにもこだわる

水谷氏は、撮影するスポーツによってカメラ、メディアを使い分けるという。ロンドンオリンピックの陸上競技では、キヤノンのEOS-1D Xと「サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュカード」の128GBを使用した。

「丸一日、撮影している間にコンパクトフラッシュを交換する必要がない。だから、撮影に集中できる。また、書き込みや取り込みのスピードが断然速いことも、このカードを選んだ重要な条件だ」

テニスの撮影では、EOS-1D XとEOS 7Dとともに「エクストリーム プロ コンパクトフラッシュカード」の16GBを選んだ。

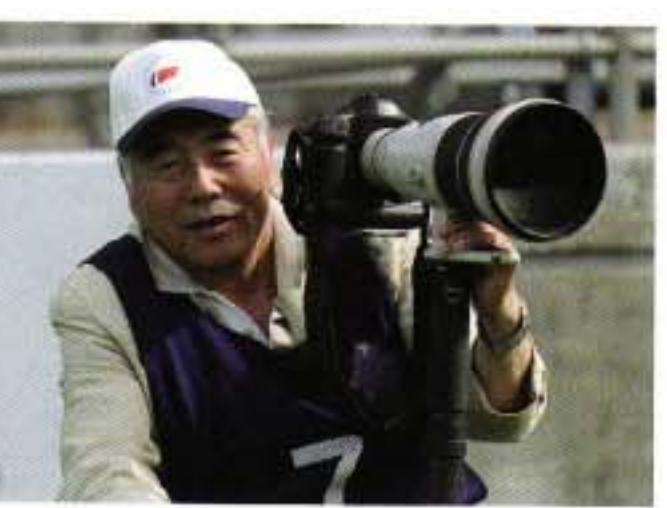
「テニスは“バランス”が命。ショットを打つ瞬間の脚の形、腕の位置、肉体の形象。それを、光と影を効果的に使って撮影したい。バランスの美しい選手のシルエットに引き込まれるようにシャッターを切っていたね」

水谷氏が求める写真は、ここぞという瞬にしか存在しない。だから、あえて容量の小さい16GBのコンパクトフラッシュを選択したのだ。

「いい写真というのは、カメラ、レンズ、メディア、そして写真家の一体感から生み

出される。どれか一つ欠けてもダメなんだ。選手は人間であり、生身。この試合のために己の肉体を極限までいじめ抜いて命がけで臨んでいる。勝負の世界で流す涙や内に秘めた熱情。被写体に向かうたびに、その懐はさらに深くなっているを感じている。選手と一緒に、我々写真家も、大事な一瞬のために集中力が要求される」

だからこそ、信頼性の高い機材とメディアは写真家の命綱であるという。今日も、水谷氏は、どこかの競技場で至高の一瞬を狙い続けている。



水谷 章人（みずたに あきと）
1940年、長野県生まれ。65年、東京綜合写真専門学校卒業後、スポーツ専門のフリーランスカメラマンとして活躍。以降、各競技のワールドカップ、オリンピックなどを撮影し、雑誌、写真集、写真展で発表している。一般社団法人日本スポーツプレス協会会長、国際スポーツプレス協会会員、公益社団法人日本写真家協会会員、公益社団法人日本写真協会会員、日本写真芸術学会会員

SanDisk®

使っているだけで「さすが」と思われる メモリーカードは少ない。

カメラの性能を最大限に引き出す、
最大95MB/秒^{*1}の超高速データ転送。

究極のSDTMカード、サンディスク エクストリームTM プロTM シリーズ



最大
90
MB/秒
の書込み速度

最大
95
MB/秒
の読み取り速度

サンディスク エクストリームTM プロTM
SDXCTM UHS-I カード 64GB

サンディスクパワーコアTM コントローラ搭載

〔信頼性〕 インテリジェントなデータ管理を可能にする、業界最高水準のエラー訂正コード

〔UHSスピードクラス1〕^{*2} フルHD動画^{*3} の撮影にも最適な、UHSスピードクラス1に準拠

〔究極のスピード〕 最大95MB/秒の超高速データ転送を実現

〔耐久性〕^{*4} 防水、温度、衝撃、X線などの過酷なテストをクリアし、極限の状況下でも正確な動作を実現

〔長寿命〕 ウェアレベリング技術により、データの保全とカードの寿命を最大化

〔テクノロジー〕 サンディスク独自のパワーコアTM コントローラにより、効率的かつ迅速なデータ処理が可能

〔大容量〕 最大64GBまでの大容量で、高速連写による膨大な画像データや、フルHD動画も余裕で保存

〔絶対の自信〕 絶対の自信に裏付けされた、無期限保証^{*5}付き



サンディスクイメージメイトTM
オールインワンUSB3.0リーダー/ライター

超高速性能・大容量

Extreme Series
エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの82.4%^{*}から「安心のブランド」と評価されました。^{*}2010年2月当社調べ。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/reader>

サンディスクはフラッシュメモリーカード世界^{*}・国内^{**}シェアNo.1ブランドです。

サンディスク

検索



* 2010年Gartner調べ [Gartner Dataquest No. GO211697 03/25/2011]。** GfK Japan調べ [国内の有力家電量販店販売実績集計/2011年]。*1 最大読み取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。*2 ロゴは、HD動画を最適に録画するためのスピードを有するUHSスピードクラス1を意味します。*3 フルHD動画(1920×1080×30fps)、HD動画、3D動画のサポートについてはご使用の機器、ファイルサイズ、解像度、圧縮率、ビットレート、撮影内容、その他の状況に依存します。*4 詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/Corporate/proof/> *5 保証内容に基づきます。ドライブ及び無期限保証を認めていない地域においては30年保証。1.1メガバイト(MB)=100万バイト。1ギガバイト(GB)=10億バイト。記載された容量の一割はフォーマット及び他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。2.機器によっては、SDXCカードやUHS-IIに対応していない場合があります。詳細は機器のメーカーにお問い合わせください。3.SanDisk、SanDiskロゴ、SanDisk Extreme、サンディスク エクストリーム、SanDisk Extreme Pro、サンディスク エクストリームプロ、イメージメイト、及びパワーコアは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDXCのマーク及びロゴはSD-3C LLCの商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。